

「信教の自由」侵害を危惧 コロナ特措法改正に反対

新型コロナウイルス対策のための改正特措法に緊急事態条項が盛り込まれていること等を理由に反対する「宗教者緊急声明」が13日、永田町の参議院議員会館における緊急集会で発表された。声明は自民党が私権を制限する「緊急事態宣言」を憲法を変えて実現しようとしていること、特

措法の緊急事態条項を同一線上にあるとみなし、「ウイルス問題を奇貨としながら、憲法改定の意図まで含み持つ本末転倒的な対応」と批判。「宗教活動を営むことさえ制約されることにつながり、『信教の自由』を侵害するものとなりえます」としている。仏教・キリスト教の約160人が賛同

者として名を連ねた。日本山妙法寺僧侶の武田隆雄氏は政治的発言が萎縮している最近の社会



権力を監視する必要があることを説いた武田氏(右端)

風潮を不安視し、「緊急事態宣言を安倍政権に渡し、てしまったらどうなるか」という心配が大きい。日蓮聖人は鎌倉幕府に立正安国論を建白した。こういう時代だからこそ私たちが権力の横暴に警鐘を鳴らしていく必要がある」と述べた。日本キリスト教協議会総幹事の金性済氏は平和のための集会在「感染危機」を理由に中止を命じられるなど、権力側が都合よく利用するおそれを指摘した。